

## 【サブテーマ② 阿蘇山と雲仙岳】



応募者：野田 純一さん（熊本県宇土市在住）

タイトル：彼方に

撮影場所：阿蘇熊本空港 撮影時期：2015年9月9日／2015年7月10日

コメント：熊本には金峰山という高い山がありますが、遠景から見ると雲仙岳と非常によく似た形をしています。ですから私は双子連山の様に思えてなりませんし非常に愛着があります。角度を変えて見たら色々な顔を見せてくれるのが雲仙岳です。阿蘇熊本空港のターミナルビルから撮ったものですが、同じ場所から雲仙岳と阿蘇連山が一望出来る絶景の場所です。下は、空港を離陸した後、目的地へ飛んでる飛行機（茶色）とその奥の飛行機は今正に着陸をしようとしている瞬間のショットです。上は、風向きで離陸の方向が変わりますので、この日は阿蘇山に向かって離陸したボーイング787ですが、噴火の影響でこの後直ぐ左旋回して（阿蘇山を避けて）目的地へと進みます。着陸は阿蘇山を避けながら着陸です。この様にその時間、その瞬間によって映る顔が変わるのが雲仙岳と阿蘇連山です。



応募者：西尾 隆一さん（熊本県熊本市在住）

タイトル：噴火する阿蘇方向への離陸と夕日の着陸

撮影場所：阿蘇くまもと空港 撮影時期：2014年12月7日／2015年2月1日

コメント：阿蘇山に向かって華麗な離陸を見せる JAL 機と、雲仙岳と金峰山をバックに夕日を浴びながら着陸する ANA 機。写真に撮った雲仙岳の形状が、あたかもプッチンプリンの形に似ていたのが印象的でした。



応募者：榎 光義さん（熊本県熊本市在住）

タイトル：「雲の中の雲仙岳」「雲かかる阿蘇」

撮影場所：熊本市西区熊本西大橋 撮影時期：2015年9月10日／2015年9月10日

コメント：白川の空には堂々と雲をまとった雲仙岳。明日の天気を予想する目安にもなるとか。頂上は、持ち手の付いた土鍋の蓋のようにも見える。

誰が見ても阿蘇と分かる場所と雲仙岳の見える場所は距離的にも〇、歩道も広い。噴煙が白くなる時を待つ。

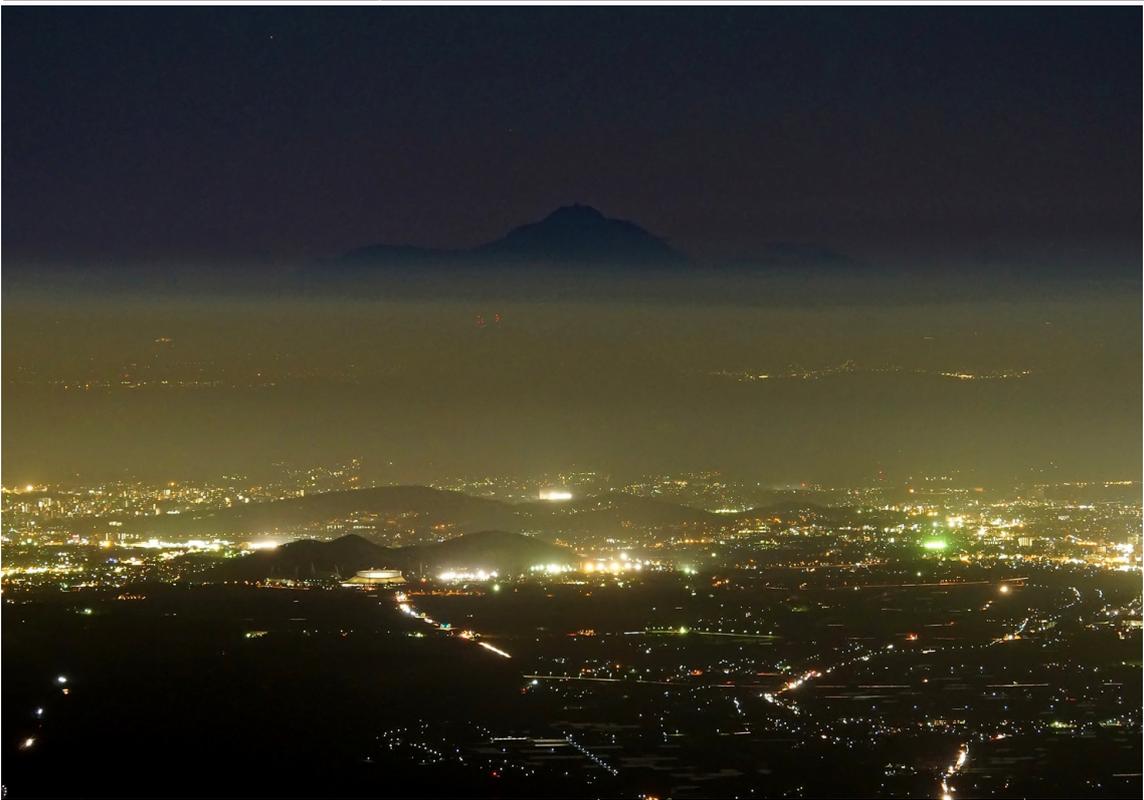


応募者： 湊上 久男さん（長崎県諫早市在住）

タイトル： 白木峰高原より雲仙岳・阿蘇山を望む

撮影場所： 諫早市白木峰町白木峰高原 撮影時期： 2015年10月5日

コメント： コスモス咲く白木峰より朝焼けの雲仙岳と阿蘇山を撮影。この朝は、東方に、雲が無く阿蘇山まで、見通せました。残念ながら噴煙までは望めませんでした。雲仙岳の形状は、鼻の低い人が、口を開けて寝ている横顔のようです。右側が足元です。

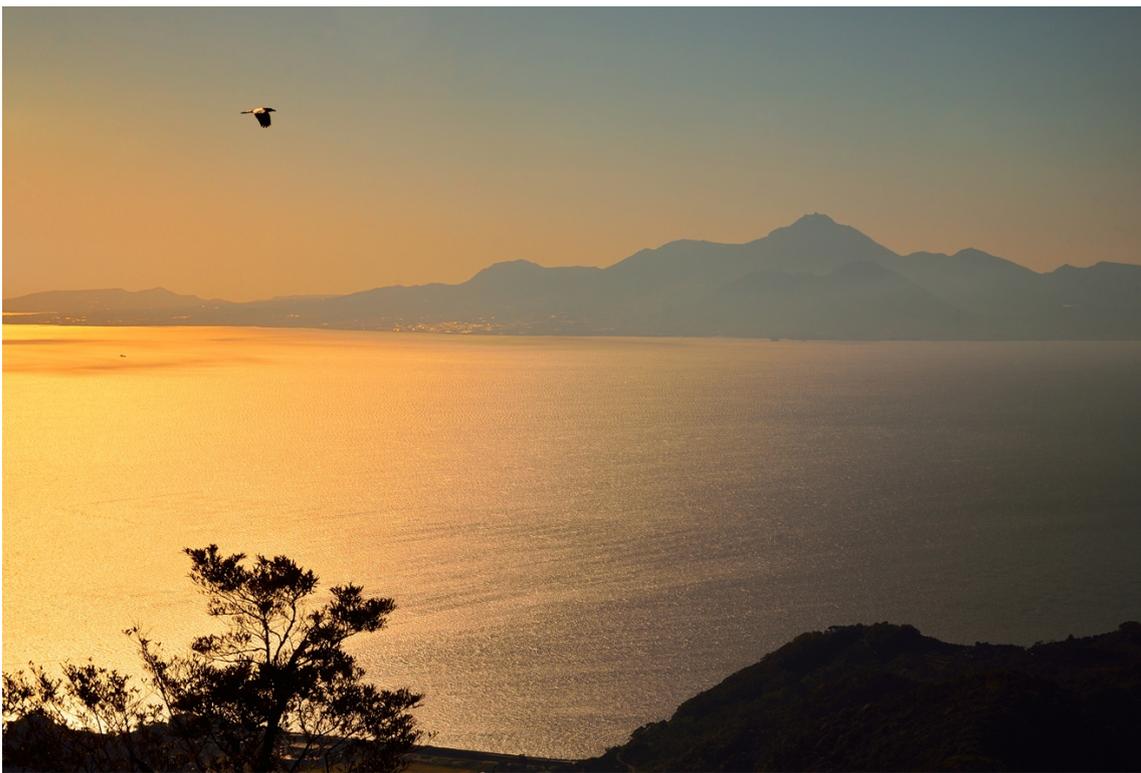
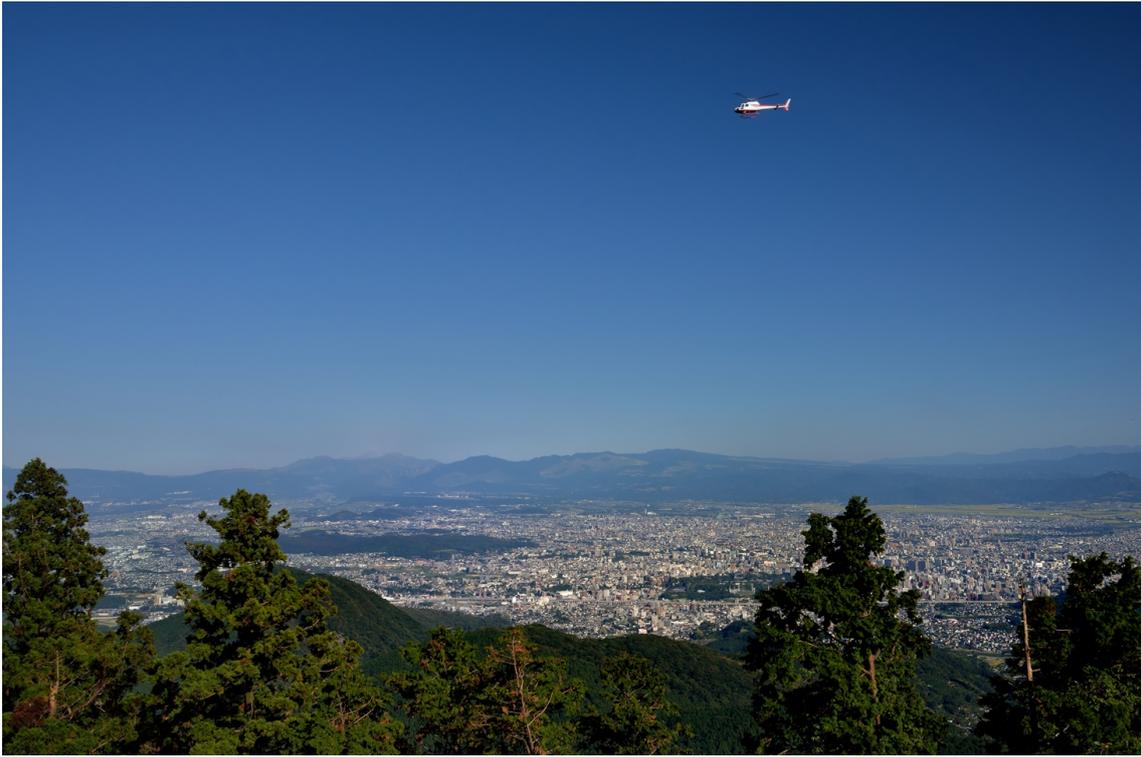


応募者：西尾 隆一さん（熊本県熊本市在住）

タイトル：阿蘇山と雲仙

撮影場所：草千里 撮影時期：2015年3月12日／2015年10月3日

コメント：漆黒の闇で埋め尽くされるとき、神々がおわします土地が姿を現す。草木が生い茂り、または朽ち果て、月日の流れを感じられずにはいられない悠久の営みが、時を経て私の心に伝わってきます。星の海を従え、草千里に映し出される噴火のいでたちは、あたかも雲仙岳の形状と重なって見えます。



応募者：榊 光義さん（熊本県熊本市在住）

タイトル：飛んで行けえ阿蘇へ／飛んで行けえ雲仙へ

撮影場所：金峰山 撮影時期：2015年10月7日

コメント：熊本平野の奥に阿蘇山の山脈。ヘリでひとつ飛びの感じがする。／金峰山から西を見渡せば、雲仙岳が外洋を阻む地形だと納得。鳥もひとつ飛びに渡れそうに感じる。頂上は“亀が首を上げて、有明海を見張っている、又、守っている”感じにも見える。



応募者 : 湊上 久男さん (長崎県諫早市在住)

タイトル : みかん畑から雲仙岳と阿蘇山を望む

撮影場所 : 熊本県宇土市長浜町 撮影時期 : 2015年10月14日

コメント : 秋に美しいのり網を撮影するみかん畑の丘から雲仙岳及び阿蘇山が一望出来ます。この日は雲一つ無い晴れた日で、少し霞が掛かって居ましたが、綺麗に撮影出来ました。約70年前小学校の教科書に有った、「みそ五郎どんが雲仙岳に腰かけて顔を洗っていた」との内容が頭から消えず、雲仙岳を見るとみそ五郎どんの腰掛を連想します。



応募者：指原 孝治さん（大分県由布市在住）

タイトル：くじゅうから望む雲仙

撮影場所：星生山 撮影時期：2015年10月3日

コメント：早朝、くじゅう一帯が朝焼けに染まるなか、阿蘇北外輪山の奥にはっきりとした山影の雲仙が浮かんでいました。まるで雲に浮かぶ島のような感じでした。雲仙の形は、左を頭にした亀にやっぱり見えますね…。



応募者：日當 國親さん（熊本県八代市在住）

タイトル：「遙か遠くに」

撮影場所：熊本・阿蘇草千里展望所付近 撮影時期：2015年10月3日

コメント：阿蘇中岳噴火によりレベル3となっている中，ここ草千里展望所から反対方向を向きますと，普賢岳が熊本市内～金峰山の向こう側に浮かび上がっている光景が幻想的であり，思わずシャッターオンしました。  
写真に写った雲仙岳の形状は“でべその形”に似ています。



応募者：中島 久宜さん（大阪府八尾市在住）

タイトル：噴煙を上げる阿蘇中央火口丘

／熊本市街や有明海の海苔箸を従えて超然と聳える普賢岳

撮影場所：阿蘇南外輪山大矢岳付近 撮影時期：2015年1月18日

コメント：阿蘇南外輪山の尾根から、東を見ると阿蘇カルデラの南郷谷を眼下に、阿蘇中岳の噴煙が濃く流れ、西を見ると遠く有明海を隔てて雲仙岳が浮かんでいた。金峰山と雲仙岳の山容は似ているが、雲仙岳の普賢岳にはツノが一本立っていて、一角鬼がこちらを眺めているような存在感を感じる。



応募者：富安 一夫さん（福岡県八女市在住）

タイトル：薄明の月明かりに映える阿蘇山／夜半の月明かりに浮かぶ冠雪の雲仙岳

撮影場所：熊本市西区金峰山付近 撮影時期：2016年1月22日／2016年1月20日

コメント：この冬は晴れた日が少なく、この日もほぼ一日中どんよりとした日だったのに、奇跡的に日没時に晴れ間が覗き、急いで駆けつけて撮影したのがこの風景です。大きな阿蘇の山塊は、あたかも光輝く熊本市内を慈しむ親のようでもあります。ちなみに、画面上部の光の横線は、右下の熊本空港を離陸した旅客機の航跡です。／かなり冷え込みが厳しい夜でしたが、散りばめたダイヤの上に聳え立つ雲仙岳の冠雪が月の光に照らされて、まるで映画の冒頭シーンのようで、つい寒さを忘れるほどの光景でした。